

平成 29 年 6 月 7 日

宮交ホールディングス株式会社
代表取締役社長 菊池 克頼

平成 28 年度 業績に関するお知らせ

当期におけるわが国の経済は、企業業績や雇用情勢の改善が続いていることにより、緩やかな回復基調となりました。一方で、海外の政治・経済の不確実性の高まりや為替相場の不安定さなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。また、九州の観光などに大きな影響を与えた「平成 28 年熊本地震」については、復興に向けた取り組みが行われました。

このような経済環境のもと、創業 90 周年の節目を迎える宮交グループでは、「安全・顧客満足・価値創造において地域 No.1 の企業グループへ」を経営ビジョンとして掲げ、「経営を支える土台作り」、「成長マーケットへのアプローチ」、「安心と信頼の確立」を推進の柱に据えた「平成 28 年度～平成 30 年度 3 ヶ年経営計画」を策定し、本格的な成長ステージと位置づけ、これまでの取り組みをさらに強化してまいりました。

また、熊本地震による需要の冷え込みなどに対応するため、主要旅行会社への営業を迅速に行い、復興支援策「九州ふっこう割」などを活用して収益改善に努めてまいりました。

当期の主な取り組みとして、宮崎交通では、県内外のお客様の利便性向上を目的として、全国相互利用交通系 IC カード「nimoca(ニモカ)」の本格的な運用を開始いたしました。また、物流事業者と連携して路線バスで貨物を運ぶ客貨混載の路線を 3 路線に拡大し、さらに、西都～西米良においては、保冷専用スペースによる地域特産品の輸送を開始いたしました。宮交タクシーでは、選ばれるタクシー会社を目指して安全教育や接客研修に取り組み、サービスレベルの向上に努めた結果、多くのお客様にご利用いただき、さらに、スクールバスや自治体のコミュニティーバスの受託拡大にも取り組んでまいりました。宮崎観光ホテル、青島リゾートにおいては、よりお客様から支持されるホテルを目指し、客室改装やバンケットホール改装など将来に向けた積極的な投資を行うと同時に、国内・国外を問わず幅広くセールスを展開し集客に努めてまいりました。宮交ショップアンドレストランでは、「国民宿舎ホテル高千穂」、「白鳥温泉」の運営受託や鶴戸神宮「三ツ和荘」のテナント入居を行い、これまでのノウハウを生かして、装いも新たに地域に根差した営業を進めてまいりました。宮崎ビルサービスでは、新規物件の獲得を目指した総合セールスの強化を図り、資格取得など人材育成を推進し、品質とサービスの向上に努めてまいりました。

そのほかの取り組みとして、訪日外国人観光客への対応に加え、あらゆるスポーツイベントにかかわる輸送・宿泊・物販など、宮交グループの総合力を生かして収益の拡大に努めてまいりました。

以上の結果、当期の連結売上高は 180 億 11 百万円（前期比 98.1%）、連結営業利益は 9 億 56 百万円（前期比 72.0%）、法人税等を差し引いた親会社株主に帰属する当期純利益は 4 億 87 百万円（前期比 51.7%）となりました。

1. 営業成績の状況

(1) グループ業績 (連結ベース)

(単位：百万円)

【連結グループ業績】	当期実績	前期実績	前期比較	前期比 (%)
営業収入	18,011	18,355	△343	98.1
営業利益	956	1,327	△371	72.0
経常利益	729	1,087	△358	67.0
当期純利益	487	941	△454	51.7
償却前営業利益	1,923	2,183	△259	88.1

注1) 数値については、連結ベースでございます。

注2) 連結子法人は次の6社でございます。

宮崎交通(株)、宮交タクシー(株)、(株)宮崎観光ホテル、青島リゾート(株)、
宮交ショップアンドレストラン(株)、宮崎ビルサービス(株)

注3) 持分法適用法人は、次の2社でございます。

宮崎空港ビル(株)、宮崎パブリックゴルフ(株)

注4) 上記数値は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 事業部門別業績 (連結ベース)

(単位：百万円)

事業部門		営業収入	前期比較	前期比 (%)	営業利益	前期比較
宮崎交通(株)	バス事業	5,320	△181	96.7	164	△130
	旅行事業	618	△31	95.2	18	△14
	航空事業	884	8	101.0	281	△6
	保険事業	154	△15	91.1	61	△11
	こどものくに事業	102	△25	80.2	△85	△20
	熱源センター事業	254	△33	88.3	35	10
	不動産事業	306	15	105.4	150	3
	本社	48	2	104.9	0	0
小計	7,691	△260	96.7	625	△168	
宮交タクシー(株)		1,963	△60	97.0	129	4
(株)宮崎観光ホテル		3,614	△82	97.8	244	△35
青島リゾート(株)		1,525	△51	96.8	64	△15
宮交ショップアンドレストラン(株)		2,984	49	101.7	△98	△165
宮崎ビルサービス(株)		1,200	△22	98.2	16	4
宮交ホールディングス(株)		609	287	189.5	255	252
連結消去		△1,578	△204	—	△281	△54
連結売上高合計		18,011	△343	98.1	956	△371

注1) 上記数値は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 事業部門別の概況

① 宮崎交通㈱ バス事業

一般路線バスでは、全国相互利用交通系 I C カード「nimoca（ニモカ）」の本格運用を開始したほか、物流事業者と連携して路線バスで貨物を運ぶ客貨混載の路線を延岡～高千穂、日向～諸塚の 2 路線を追加し 3 路線に拡大いたしました。さらに、既存の西都～西米良において、車両に保冷専用スペースを搭載し地域特産品の輸送を開始するなど、増収の拡大を図ってまいりました。また、定時性確保を目的として信号機をバス優先に制御できる公共車両優先システムを導入するなど、利用環境の改善に取り組んでまいりました。そのほか、増加する訪日外国人観光客に対応するため、スマートフォン向けアプリの提供、バス停や車内放送の多言語化に取り組んでまいりました。乗車人員は、路線廃止や減便を実施したこともあり、9,378 千人（前期比 96.9%）、営業収入 36 億 8 百万円（同 98.3%）、営業損失 70 百万円になりました。

高速バスでは、熊本地震の影響により長期間の運休や迂回運行が発生し、その後も観光需要の落ち込みが見られました。そのため、学生の利用を喚起するための学割運賃を設定したほか、オフ期の需要を喚起する魅力ある運賃設定、プロ野球キャンプなどで来県される方を対象にした一般路線バスとのセット乗車券の販売など、積極的に施策を打ち出すことで収益の確保に努めました。乗車人員は、316 千人（同 91.1%）、営業収入 9 億 67 百万円（同 89.0%）、営業利益 86 百万円（同 52.5%）となりました。

貸切バスでは、熊本地震の影響により多くの予約取消が発生いたしました。その後、首都圏を中心とした「九州ふっこう割」旅行商品による需要を獲得すると共に、クルーズ船運航企画会社へのセールスを展開してまいりました。また、車両運行の効率化や経費削減にも努め、営業収入 6 億 50 百万円（同 99.8%）、営業利益 1 億 28 百万円（同 104.3%）となりました。

広告宣伝では、主力商品のラッピングバス新規 22 台を含む 54 台を獲得いたしました。バスへの親しみや関心を高めるため、小学生対象の第 8 回バスデザインコンテストを実施いたしました。また、宮崎神宮大祭では、シャンシャン馬の運営を受託し、安全に催行する事ができました。営業収入 93 百万円（同 104.7%）、営業利益 19 百万円（同 147.3%）となりました。

バス事業では、売上高 53 億 20 百万円（同 96.7%）、営業利益 1 億 64 百万円（同 55.7%）と、減収減益になりました。

② 宮崎交通㈱ 旅行事業

熊本地震の影響により国内の主催旅行、手配旅行共に中止や延期が相次ぎ、厳しい状況で推移いたしました。その後、「九州ふっこう割」を利用した旅行商品により九州内の旅行販売は、前期並みに回復することができました。一方、「九州ふっこう割」により受注が九州内に集中したことで、九州外への旅行販売は厳しい結果となりましたが、「東北」、「石垣」と 2 本の国内チャーター便を満席で催行し、お客様にご好評を得ることができました。海外旅行については、国際情勢の不安に加え、従来のパッケージ商品では満足しない多様化する顧客ニーズに対応できず、厳しい状況で推移いたしました。

旅行事業では、売上高 6 億 18 百万円（同 95.2%）、営業利益 18 百万円（同 56.0%）と、減収減益になりました。

③ 宮崎交通㈱ 航空事業

宮崎空港の国内線乗降客数は2,968千人(同102.8%)、国際線乗降客数は93千人(同93.2%)で推移いたしました。国内線は、前期8月より新たにピーチ・アビエーションの就航もあり、乗降客数は増加いたしました。国際線は、熊本地震の影響を受け、特に第1四半期の乗降客数の減(同81.1%)により減少いたしました。作業安全・接遇・定時運航など品質の維持向上にも努め、前期以上の収入を確保することができました。一方、経費面では、品質の維持向上のための人件費が15百万円増(同102.5%)となりました。

航空事業では、売上高8億84百万円(同101.0%)、営業利益2億81百万円(同97.6%)と、増収減益になりました。

④ 宮崎交通㈱ 保険事業

生命保険では、終身保険や定期保険など個人向け死亡保険の販売に努めました。また、損害保険では、自動車保険や火災保険に加え、企業向けの賠償責任保険など新たな顧客獲得に努め、好調に推移いたしました。一方、競争の激化する医療保険・がん保険では、就業不能保険などの新商品販売に努めましたが、厳しい状況で推移いたしました。

保険事業では、売上高1億54百万円(同91.1%)、営業利益61百万円(同84.6%)と、減収減益になりました。

⑤ 宮崎交通㈱ こどものくに事業

春休み期間の「フラワーフェスタ2016」をはじめ、夏休みイベントや「青島国際ビールまつり」など、各種販売促進企画を展開してまいりました。こどものくに単体の入場者数は99千人(同73.9%)となりました。また、「宮崎市青島パークゴルフ場」は、個人向けの初心者教室開催や企業・団体による大会の開催、新規団体の誘致に努め、来場者数は30千人(同96.7%)となりました。

こどものくに事業では、売上高1億2百万円(同80.2%)、営業損失85百万円になりました。

⑥ 宮崎交通㈱ 熱源センター事業

熱供給事業は、委託元の省エネ対策の進むなか、夏季の気温上昇により前期並みの収入で推移いたしました。ビル管理業務は、前期に引き続き受託を継続することができました。また、グループ修繕業務は、計画的に設備改修提案を行い大型工事などの受注に努めましたが、前期実績より35百万円の減収となりました。経費は、燃料単価の低下に加え、熱負荷に応じた機器を使用し大幅なコスト削減を実施いたしました。

熱源センター事業では、売上高2億54百万円(同88.3%)、営業利益35百万円(同145.3%)と、減収増益になりました。

⑦ 宮崎交通㈱ 不動産事業

延岡市塩浜バス整備工場の老朽化および同市内に所有する不動産の有効活用化の対策として同市大武町に整備工場を新築し、営業所とともに移転いたしました。その結果、延岡地区のバス事業の拠点の集約を行うこととなり、また、整備工場跡地については、今後の有効活用を図ってまいります。さらに、宮崎市広島2丁目および老松2丁目の不動産を取得し、収益物件としての利用および再開発を計画いたしております。営業活動としては、

宮交グループ

継続して所有不動産の賃貸・維持管理・テナント誘致などを実施いたしました。

不動産事業では、売上高 3 億 6 百万円 (同 105.4%)、営業利益 1 億 50 百万円 (同 102.6%) と、増収増益になりました。

⑧ 宮交タクシー(株)

熊本地震の影響による観光客の大幅な減少や各種イベントなどの中止による需要の減少に対し、復興支援ボランティアや損害保険会社による被害調査などの送迎輸送の受注、政府や自治体などによる復興支援策に伴う観光客の取り込みにより収入確保に努めました。また、ゴルフマンスやプロ野球キャンプ、WBC 日本代表強化合宿など各種イベント・コンベンションの開催による需要増に対し、配車対応の強化を図りました。10 月からは「ANA ホリデイ・イン リゾート 宮崎」との連携によるタクシープラン (宮崎空港⇄ホテル) の運行を開始するなど新規需要の取り込みも図りました。

タクシー事業では、年間を通して、受電件数は増加したものの輸送回数、運送収入共に前期を下回る実績となりました。

中・小型貸切バス事業では、熊本地震の影響による県外からの団体観光客の減少や観光シーズンの需要減など年間を通して厳しい状況が継続し、受注件数、運送収入共に前期を下回る実績となりました。

請負事業では、支援学校のスクールバスや自治体のコミュニティーバスの受託を拡大し収益確保に努め、前期を上回る実績となりました。

宮交タクシーでは、売上高 19 億 63 百万円 (同 97.0%)、営業利益 1 億 29 百万円 (同 103.4%) と、減収増益になりました。

⑨ (株)宮崎観光ホテル

宿泊部門では、熊本地震発生直後から、首都圏・関西・中部エリアへの営業を実施、また、行政による復興施策にも迅速に対応し、集客の回復に努めました。宴会部門では、東館 3 階バンケットホールの改装を行い、お客様満足の向上を図りました。婚礼部門では、改装したバンケットホールの販売強化や新しいレストランウェディングの提案を行ないました。レストラン部門、物販部門では、地震による県外宿泊客の減少に対応するため県内向けの商品造成に力を注ぎました。

エムズホテルクレール宮崎では、WEB 集客の強化、お客様満足の向上に努め、宿泊人員、宿泊単価共に好調に推移いたしました。

宮崎観光ホテル全体では、売上高 36 億 14 百万円 (同 97.8%)、営業利益 2 億 44 百万円 (同 87.2%) と、減収減益になりました。

⑩ 青島リゾート(株) (ANA ホリデイ・イン リゾート 宮崎)

熊本地震の影響により、国内団体および香港・台湾の訪日外国人観光客が減少するなか、「九州ふっこう割」などの対策による様々なプランの販売を実施し、宮交グループ合同での緊急施策として首都圏・関西・中部エリアへの営業を展開し集客に努めました。また、5 階と 6 階客室のブランドスタンダード改装をはじめとして、非日常 (アジアリゾート) 空間と快適な環境づくりを行いながら、開業 20 周年記念事業の展開や隣接する「こどものくに」と行政を含めた地元との連携を強化してまいりました。

管理面では、プールの季節営業化やスタッフで構成する省エネ推進委員会による水道光熱費削減など、営業費用の削減にも努めてまいりました。

青島リゾートでは、売上高 15 億 25 百万円 (同 96.8%)、営業利益 64 百万円 (同 80.6%) と、減収減益になりました。

⑪ 宮交ショッピングアンドレストラン㈱

「青島屋」は、訪日外国人観光客の増加に対応した品揃えの強化、大型クルーズ船の受入れを積極的に行い、インバウンド需要の獲得に努めてまいりました。なお、より良いサービスの提供を目指し、9月より店舗建て替えを開始いたしました。7月に、人気観光地「鶴戸神宮」に立地する創業明治8年の歴史ある「三ツ和荘」にテナント入居し、リニューアル工事を経て9月より営業を開始し、好調に推移いたしました。

指定管理事業としては、新規に「国民宿舎ホテル高千穂」と「白鳥温泉上湯下湯」を受託開始しましたが、「国民宿舎ホテル高千穂」は、運営開始早々に熊本地震が発生し、宿泊客の大幅減少、募集团体や宴会などの自粛によるキャンセルが相次ぎ、その後も観光需要が回復するまでに至らず、営業損失を計上することとなりました。

「高岡温泉やすらぎの郷」、「石崎の杜鯨鯨館」は、レクリエーションやエンターテインメントの生活化をコンセプトにイベントを催すことで、利用者を伸ばし営業収益は堅調に推移いたしました。

全体としては、熊本地震や天候不順によるイベントリスクなどが重なり、観光事業収入に大きな影響を受けました。

宮交ショッピングアンドレストランでは、売上高 29 億 84 百万円 (同 101.7%)、営業損失 98 百万円になりました。

⑫ 宮崎ビルサービス㈱

公共入札物件の新規受託や、得意先のフロアコーティングなどの臨時的な受託があったものの、民間物件の不採算契約の解除や更新契約の減額などもあり、厳しい状況で推移いたしました。

経費面では、適正人員を確保することができず、人材派遣や外部委託に頼らざるを得ない状況でありましたが、経費全般においてさらなる圧縮に努めてまいりました。

宮崎ビルサービスでは、売上高 12 億円 (同 98.2%)、営業利益 16 百万円 (同 133.0%) と、減収増益になりました。

3. 有利子負債の圧縮状況

平成28年3月31日残高	14,065百万円
平成29年3月31日現在残高	14,142百万円
差引	77百万円

4. 平成29年度の取り組みと計画について

① 宮崎交通㈱ バス事業

一般路線バスでは、過疎化や人口減少が進むなか、恒常的な赤字が発生し将来的にも改善の見込が低い路線を廃止しましたが、同様の状況にある他の路線についても、そのあり方を行政機関などと協議してまいります。また、他事業者とも連携し、路線維持に向けた取り組みを行ってまいります。

高速バスでは、学割運賃の設定が好評で利用者が増加していることを踏まえ、空席を減らし、収入を最大にするための運賃施策を継続して実施してまいります。そのほか、運転士をはじめとする人材の確保は喫緊の課題であるため、積極的な採用と定着に向けて諸施策を実行してまいります。また、定時性向上に向けての所要時間の適正化や、接客・サービスレベルの向上に努めてまいります。

貸切バスでは、貸切バス運賃の適正化、運賃単価向上に努め、車両運行の効率化と乗務員確保により、稼働率向上を図ってまいります。29年度上期に新車2台を導入し、品質向上、サービス改善にも努めてまいります。また、定期観光バスの充実を図り、訪日外国人観光客などの取り込みを行ってまいります。

広告宣伝では、カラーバスを中心としたバス広告を展開するなか、屋外広告物許可基準の緩和について行政に働きかけると共に、広告代理店への営業を積極的に行ってまいります。

② 宮崎交通㈱ 旅行事業

主催旅行については、顧客の利用履歴に基づくマーケティングを実施し、顧客ニーズに応じた集客力のある付加価値の高い商品造成に努めてまいります。なかでも、登山や観劇など、健康や趣味の分野をサポートする魅力ある体験型ツアーの造成に力を注ぐと共に、宮崎空港国際定期便を活用した短期観光企画も継続しつつ、世界遺産やリゾートを目的とした欧州や北米への長期周遊企画にも取り組んでまいります。

手配旅行については、企業、教育、スポーツなどの各種団体に対し、発地型旅行のみならず、宮崎で開催される全国大会などの着地型イベント受注も強化してまいります。また、新規顧客や企業の獲得と囲い込みに繋げるため、旅行積立制度「宮交また旅友の会」会員の増強に努めてまいります。

③ 宮崎交通㈱ 航空事業

航空事業では、人材教育の強化やより適正な人員配置による安全性・定時性・利便性などの空港品質の向上に努めると共に、引き続き効率的な運営に努めてまいります。

④ 宮崎交通㈱ 保険事業

保険事業では、契約保全活動を通じた顧客との接点強化により、地域に根差した代理店として他社との差別化を図ると共に、多様化する顧客ニーズに対応すべく、生命保険・損害保険の区別なく提案型営業を強化してまいります。

⑤ 宮崎交通㈱ こどものくに事業

こどものくにでは、「自然と遊ぶ自由な空間」をコンセプトに、新運営形態の営業を展開してまいります。県民の憩いの場所としてイベント広場貸出誘致やバラ園・椿園・寒緋桜など魅力ある庭園づくりを行ってまいります。また、隣接するホテルや青島地域との連携強化を図ってまいります。パークゴルフでは、自主大会の増設や冠大会の誘致を行い、世

代を超えた健康増進のスポーツとしての周知や競技人口拡大にも積極的に取り組んでまいります。

⑥ 宮崎交通㈱ 熱源センター事業

供給先の省エネ対策による熱供給量の減少が見込まれるなか、設備機器の効率的な運転を図り、コスト削減に努めてまいります。一方で、グループ会社の設備更新・改修および省エネ提案によるコスト削減にも積極的に取り組んでまいります。また、国家資格取得を含め人材育成を推進してまいります。

⑦ 宮崎交通㈱ 不動産事業

所有する不動産の有効活用をさらに進めると共に、賃貸物件の営業活動、維持管理を行い収益拡大に努めてまいります。また、物件および出店希望などの情報収集に取り組み不動産仲介においても業績向上に努めてまいります。延岡駅再開発に伴う事業所移転にも取り組んでまいります。

⑧ 宮交タクシー㈱

タクシー業界の課題となっている人材確保や高齢化への対応およびタクシー特措法に関わる車両台数問題など、将来の事業に関わる課題に取り組んでまいります。また、ユニバーサルデザインのタクシー車両を 29 年度下期に導入し、安全性と接客サービスの向上を図ってまいります。さらに、営業力の強化による既存顧客の需要の掘り起こしと新規顧客獲得に努めてまいります。併せて、支援学校やコミュニティバスなどの運行受託をさらに拡大し、安定収入の確保を図ってまいります。

⑨ ㈱宮崎観光ホテル

宿泊部門では、国内・国外の観光個人客をターゲットとした広告宣伝や、海外オンライントラベルエージェントを使ったWEB戦略強化に努めてまいります。バンケット部門では、当期にリニューアルした3階バンケットホールを積極的にセールスし、受注件数の増加、売上の拡大に努めてまいります。婚礼部門では、引き続きブランド力の強化と受注件数の増加を目指してまいります。レストラン部門、物販部門（パン・ケーキ・売店）では、季節ごとの新しい商品の開発など、マーケティングとセールスの強化を行い、さらなる集客と売上拡大を図ってまいります。29年度より、西館耐震工事を2年6ヶ月の工期で実施してまいります。また、戦略的投資として「一木一草」の増床、「はな花テラス」の改装工事を実施してまいります。

今後も安全の追求と付加価値の高いホテルを目指してまいります。

⑩ 青島リゾート㈱（ANA ホリデイ・イン リゾート 宮崎）

宿泊・料飲・婚礼・レクリエーションの統合セールス強化に努めると共に、オリンピックを視野に入れた新たなスポーツキャンプの誘致やANAとIHGネットワークを活用した団体・個人への販売促進およびインバウンド誘致活動を展開してまいります。特に、体験型宿泊提案を強化し、隣接する「こどものくに」を利用した新アクティビティメニューの開発や青島における官民が連携した様々な地域活性化事業を推進し、「笑顔と最高のおもてなしでオンリーワンのアジアリゾート」を目指してまいります。

⑪ 宮交ショッピングアンドレストラン(株)

「青島屋」のグランドオープンに向けての準備を進め、また、熊本地震の影響を受けた「国民宿舎ホテル高千穂」の収益改善を目指してまいります。営業部門においては、新商品開発と堅調に推移している県外取引の拡大に力をいれてまいります。

今後は、イベントリスクの影響を受けやすい観光事業の耐性の強化と影響が低い事業の強化に取り組んでまいります。

⑫ 宮崎ビルサービス(株)

各部署の横断的な営業展開を図り、新規物件の獲得を目指してまいります。また、喫緊の課題である人員不足の解消に向け、新しいスタイルの制服を導入するなど、企業のイメージアップを図りつつ、積極的な求人活動を実施してまいります。さらに、人材育成と品質・サービスの向上に努め、収益拡大に取り組んでまいります。

今後の経済見通しについては、海外景気の不透明さや金融資本市場の変動の影響に留意する必要があるものの、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果などもあり、緩やかに回復へ向かうことが期待されております。

このような状況のもと、宮交グループでは、「平成 29 年度～平成 31 年度 3 ヶ年経営計画」を策定いたしました。これまでとは次元の異なる熱意と努力と工夫で、本格的な成長ステージを確実なものとするため、グループ一丸となり果敢に取り組んでまいります。これまで培った信頼される宮交ブランドに磨きをかけ、株主様はもとよりお客様の満足の追求とそれを支える従業員満足の強化を図り、地域 No. 1 企業グループを目指してまいります。

29 年度における主な具体策として、不動産事業では、保有資産の効果的活用による新規収益モデルを確立し、収益拡大を目指してまいります。ホテル事業では、お客様に特別な時間とやすらぎを提供できる空間づくりを進め、さらなる集客に努めてまいります。物販・飲食事業では、プライベートブランド商品の開発・販売促進に取り組んでまいります。また、「青島屋」を地域活性化の新たな集客拠点として建て替えを行い、増収を図ってまいります。

宮交グループとして、グループ総合力を生かすと共に増収に向けた施策を着実に実行し、あらゆるビジネスチャンスに迅速に対応してまいります。さらに、グループ全体の将来にわたる成長を確実にするための投資にも積極的に取り組んでまいります。

これからも、地域の皆様に愛され、持続的な成長を続ける企業となるために、グループ一丸となって取り組みを進めてまいります。

平成 30 年 3 月期での見込みは、以下の通りです。

(単位：百万円)

【連結グループ業績】	平成 30 年 3 月期 見込	平成 29 年 3 月期 実績	前期比較	前期比 (%)
営業収入	18,872	18,011	860	104.8
営業利益	1,024	956	67	107.1
経常利益	859	729	130	117.9
当期純利益	851	487	364	174.9
償却前営業利益	1,997	1,923	73	103.8

以上